

理科グループ

物理的環境支援

- ・ 学習・教材の提示の仕方、視覚的にわかりやすくする（思）
- ・ 児童、生徒が今まで学んできたことや既存知識を生かす（思）
- ・ 教材の提示の仕方、興味を引くもの（思）
- ・ 生徒同士が見合える配置（思）

多様な評価

- ・ 自分がどの選択肢を選んだかわかりやすいようにする。あわせて正解・不正解などその都度の評価がわかるように。選択肢が明示されると教師もその都度の評価が伝えやすい（判）

② 普段の授業づくりで工夫していること

補助的手段①

- ・ 関係性（関連）がわかりやすいように視覚的に工夫する（思）
- ・ パワーポイント、視覚を生かす（イラスト・文章の大きさ・色の工夫・アニメーション）（思）
- ・ 言語だけでなく写真、イラスト、動画等を使って、学習意欲を高めたり、学習理解をしやすくすること（思）
- ・ 見通しをもたせるように単元構成をわかりやすくする（思）

補助的手段②

- ・ まとめ、復習をしっかりと行う（前回の内容を短い時間で思い出すようにする）（思）
- ・ その生徒の発達段階や興味関心に合わせた内容（思）
- ・ 生徒一人一人に応じた教材、ワークシートなど（思）
- ・ 授業における約束を提示、毎回確認する（判）

人的支援

- ・ 教師が手を貸しすぎず、見守る場面（表）
- ・ 「自分なら」「もし自分が」などといった当事者意識をもたせること（判＋思）
- ・ 自分なりの考えをまとめられるようにする（判＋思）

学習機会

- ・ 授業に動きをつける（見る、聞く、動く）（表）
- ・ 実際に動いて調べる（表）
- ・ 自分の意見や感想を伝える場を設ける（表）
- ・ 考えやすい、考えて楽しい、考えさせる問い（クイズとかも）（思）
- ・ ルールを設けて、ルールに当てはまる場面を考えさせる（判）
- ・ 生徒同士がお互いの意見を聞きあう（思）
- ・ 目や耳に刺激があるように（思＋判＋表）

多様な評価

- ・ 授業の中でクイズ形式の問いを用いる（思）

(1) 物理的環境支援

- ▶ 目の前に集中できる環境をつくる。
- ▶ 生徒がその授業の目的（テーマ）を理解できるように。
- ▶ 説明の際は、できるだけ実物や具体物を提示する。
- ▶ 安全に！

できる状況づくり
理解しやすく学びやすい
注意を向けやすい
指導しやすい
安全面、衛生面

個の力を十分発揮できる補助手段や
支援ツール

(2) 補助的手段

- ▶ 生徒自身が操作しやすく自分で取り組めるような実験装置の開発、工夫
- ▶ 生徒の興味や経験値の活用
(例：植物の生長→導入で、アニメ（トトロ）を活用)
- ▶ ICTや動画（NHK for school等）の活用～体験の補完

（３） 人的支援

適切な指導者数やかかわり

- ▶ 教師の話し方の工夫（短く、分かりやすく）
- ▶ 実験を行う際、どのように道具を使うのか工夫する。

（４） 学習機会

- ▶ 毎時間、必ず一つは実験や観察、または、生徒が実際に教材に触れたり道具を操作できる場面を取り入れる。
- ▶ 自分たちで実験方法を考えさせる。
- ▶ 生徒間での気づきの相談（話し合いの場面を設定する）
- ▶ 生徒に必ず予想させる。
- ▶ 生徒の興味関心を踏まえた教材作り、題材の設定
- ▶ 実際に目に見えて触れる教材。体験的な学習を多く設定。

主体的な学びが十分にある授業
人との協調ややりとりの機会が豊富な
授業

(5) 多様な評価

自己評価、他者評価、
相互評価多様・多重な
評価

- ▶ 実験や観察をプリントなどにまとめる時間をとる。
- ▶ まとめの際に、その時間内で気づいたことをひとつ発表してもらう
- ▶ 自分たちが行っている実験を、動画や写真で撮影し、振り返りの時に活用することも有効

<音楽グループ>

小学部（中ブロ）・中学部

1、授業の工夫に対する評価
授業作りの5つの視点

2、思考力・判断力・表現力に焦点を当てた授業の工夫

小学部（中ブロ）単元名「歌声のひびきを感じとろう」
「いろいろなリズムを感じとろう」

【物理的環境支援】⇒◎

- ・テレビが見やすい位置に配置する。

【補助的手段】⇒ ◎

- ・PPで本日の学習内容を提示する。
- ・歌詞のイメージを膨らませやすいように画像を提示する。
- ・リズムの見本提示のために、教員の動画演示を提示する。
- ・必要な児童については、キーボードに色音階を提示する。

【人的支援】⇒◎

- ・言葉かけはできるだけ少なくし、児童が自ら発表できるようにする。

【学習機会】⇒○

- ・自分の考えを発表する場面を設定する。
- ・キーボードの練習時間を十分に設定する。

【多様な評価】⇒○

- ・2グループに分かれて発表を見合うことで、互いに評価し合う。
- ・自分の演奏の動画を見て、自己評価を行う。
- ・振り返りシートを記入し、学習したことを 振り返る。

小学部（中ブロ）単元名「歌声のひびきを感じとろう」「いろいろなリズムを感じとろう」

授業づくりの5つの視点	思考力・判断力・表現力に焦点を当てた授業の工夫
物理的環境支援	・ 児童が見やすい位置にテレビを配置する。
補助的手段	・ 色楽譜・音階体操 ⇒全学年共通の色を使用し系統性をもって学習に取り組めるようにする。 ・ 歌詞のイメージを膨らませる工夫として、動画演示を取り入れる。
人的支援	・ 自分たちだけで歌えるように、支援を少なくしていく。
学習機会	・ 楽器練習の時間を十分に設定する。
多様な評価	・ 互いの演奏を聴き合う場面では、他者評価も取り入れていく。

授業の工夫に対する評価（授業づくりの5つの視点）

【物理的環境支援】⇒○

- ・教材やMTが見やすい座席配置

【補助的手段】⇒○

- ・パワーポイントや歌詞カードなどの視覚的教材の活用
- ・楽器の提示場所の工夫

【学習機会】⇒◎

- ・歌詞の内容を深めるために、言葉の意味を写真やイラストで提示する。
- ・本時のねらいを伝え、何を学習するのか明確にする。

【多様な評価】⇒○

- ・鑑賞曲の感想は、感想カードを使用する。
- ・代表生徒が器楽演奏を発表する場面をつくる。

授業づくりの5つの視点	思考力・判断力・表現力に焦点を当てた授業の工夫
物理的環境支援	・教材やMTが見やすい座席配置。 ・新しい生活様式を取り入れた配置の工夫。
補助的手段	・手話での表現を取り入れた表現。 ⇒STではなく、映像を見て覚える（学ぶ）ことや、生徒にとってわかりやすい表現方法に変えるなどの工夫。
人的支援	・必要な支援のみにし、STの人数を減らす。
学習機会	・継続した学びで取り組みの成果を確認。
多様な評価	・確認した学習のねらいに対する評価を行う。 ・文化祭で発表の場を設け、他者評価を得る。

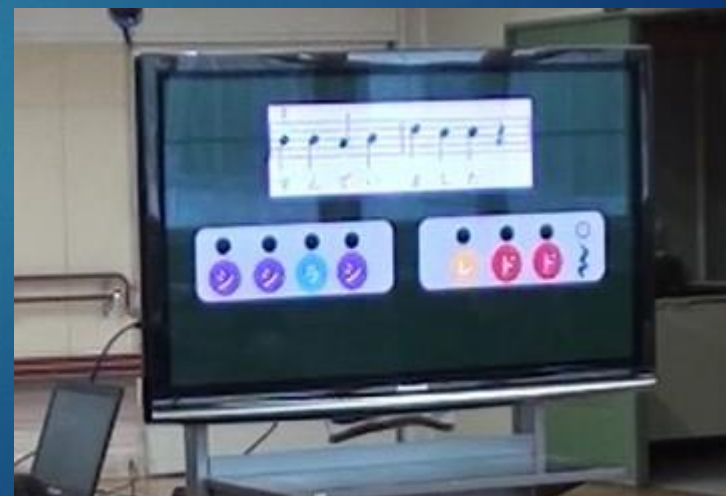
まとめ

・音楽の授業では、思考力・判断力・表現力を高めるために・・

★PPや動画など、イメージを膨らませやすい教材を活用する。

★真駒内独自に共通で取り組んでいる教材を取り入れ、系統性をもって指導に取り組めるように活用していく。

★発表の場や動画での振り返りを行い、
自己評価や他者評価も
取り入れ、学習意欲につなげていく。



< 図画工作・美術グループ >

<表 1> ※ 授業の VTR と対応（ひとつの授業を取り上げる）

【授業の工夫に対する評価】

※研究のまとめ・・・思考力・判断力・表現力に焦点を当てた授業の工夫 について集約する。

●授業作りの 5つの視点 ◎良い ○おおむね良い △指導改善を要する

授業評価の視点	内 容	評 価	課題と改善策
物理的環境支援	・ 指導者を（距離をとり）囲むように座る。（コロナ対策で学年を 2 つに分ける） ・ 視覚刺激の整理を行う。	◎	・ より良いコロナ対策との共存。
補助的手段	・ 絵の具、木工ボンドの最適な調整や容器の工夫	◎	・ 上に同じ
人的支援	・ 必要最小限の支援。 ・ エラーレス （水をこぼしたとか、絵の具が硬いとか）な用意、説明、支援。	○	・ 準備時間のコストパフォーマンスの向上。
学習機会	・ 他の子どもの作品鑑賞の機会。 ・ 前時間の自分の作品を見る（鑑賞）	○	
多様な評価	・ 上記のことを行い、肯定的な気持ちを育てる。	○	

<表 2> グループ研修で話し合い、あげられた授業づくりの工夫について記入する。

授業作りの5つの視点	思考力・判断力・表現力を引き出すための工夫
物理的環境支援	
補助的手段	
人的支援	
学習機会	・色ぬりの時間が多いが、間延びしないか→その都度、使う色を変える。道具の使い方を工夫したり、時間的余裕を持つことで、集中して行うことができる。 ・時間は、どの学部も実質30～40分位の授業
多様な評価	・小中は週1、高等部は日にちの間隔が結構、空いている。

<体育グループ>

【内容】

1. 授業作りの5つの視点から・・・
2. 思考力・表現力・判断力を引き出すために・・・
3. 全体を通して

1. 授業作りの5つの視点から・・・

【取り扱う題材】

★中学部 保健体育 球技「ティーボール」
＜知的・小＞ II・III段階「ボールを使った運動やゲーム」

★生徒数 12人

★指導者 4人

【授業作りの5つの視点から・・・】

授業評価の視点	内容	評価	課題と改善策
物理的環境支援	・ 打つ順番に生徒を配置する。 ・ 安全面を考慮し、生徒の並ぶ位置を視覚的に提示する。	◎	
補助的支援	・ ティースタンドの高さや、ボールを大きさなど、生徒自身がボールを打ったと実感できるようにする。	○	・ 本人の感覚的なものになってしまう。より明確にボールを打ったという感覚を得るために教材教具の工夫が必要。
人的支援	・ 教師は全体が見える場所に立ち、指導する。 ・ 教師が手本を見せてから活動に取り組む。	◎	
学習機会	・ 道具の準備や片付けを生徒同士で行う。 ・ 待ち時間に友達の活動を見て考える場面をつくる。	○	・ 活動時間や量の確保。 → 本時のねらいを明確にする。
多様な評価	・ 目標物を置き、視覚的にわかりやすいようにすることで自分で評価しやすいようにする。	○	・ 目標物を狙う意識の部分と体の動きの制限の双方の一致が難しい。達成感を得られるような工夫が必要。

★物理的環境支援★

- ・ 打つ順番に生徒を配置する。
→見通しを持つ。自ら動ける。
- ・ 安全面を考慮し、生徒の並ぶ位置を視覚的に提示する。
→安全面の確保。

★補助的支援★

- ・ ティースタンドの高さや、ボールの大きさなど、
生徒自身がボールを打ったと実感できるようにする。
→ティースタンドを打ってもボールは飛ぶ。ボール単体にバットが当たるような工夫。

★人的支援★

- ・ 教師は全体が見える場所に立ち、指導する。
→MTとSTの役割を明確にする。
適切なタイミングでの支援や言葉掛け。
- ・ 教師が手本を見せてから活動に取り組む。
→活動のイメージを持つ。基礎的な動きの習得。

★学習機会★

- ・ 道具の準備や片付けを生徒同士で行う。
→ 人間関係の形成。協調性の育成。
- ・ 待ち時間に友達の活動を見て、考える場面をつくる。
→ 必ずしも活動量が全てではない。

2. 思考力・判断力・表現力を引き出すために・・・

授業作りの5つの視点	工夫
物理的環境支援	・ 教材、ルールの簡略化。 ・ 活動が見える配置。
補助的手段	・ 補助具を用いる。 ・ ICT機器を用いる。
人的支援	・ 手本を見せる。 ・ 教師の雰囲気作り。 ・ 表情や動きを見逃さない。 ・ 過度な支援を控え、自発的な動きを引き出す。
学習機会	・ 成功体験を多くつむ。 ・ 役割を与える。 ・ 授業のねらいを明確にする。
多様な評価	・ 意欲的に活動へ参加する姿勢で評価する。 ・ 他者と自分を比較して評価する。

★物理的環境支援★

- ・ 教材、ルールの簡略化。
→自分で動ける環境の整理。
- ・ 活動が見える配置。
→他者と比較することで自分の活動を振り返る。

★補助的支援★

- ・ 補助具を用いる。
→一人でできる、わかる工夫。
- ・ ICT機器を用いる。
→iPadで自分の活動を見る、振り返る。
動きの修正。
意思の表出。

★多様な評価★

- ・ 意欲的に活動へ参加する姿勢で評価する。
→技能面に偏りがちだが、それ以外でも十分評価できる。
- ・ 他者と自分を比較して評価する。
→お互いに評価しあえる環境を作る。

★人的支援★

- ・ 手本を見せる。
→活動の見通し。基礎的な技能の習得。
- ・ 教師の雰囲気作り。
→意欲的に楽しく活動に取り組める。
- ・ 表情や動きを見逃さない。
→達成感、成就感を高める。
- ・ 過度な支援を控え、自発的な動きを引き出す。
→適切な支援量やタイミング。

★学習機会★

- ・ 成功体験を多くつむ。
→活動量よりも活動の質。
- ・ 役割を与える。
→人間性、社会性、協調性の育成。
- ・ 授業のねらいを明確にする。
→本時の授業で何を学ばせるか。
ただ活動量を増やせばいいわけではない。

3. 全体を通して

- ・ 身体的に障害があっても、体を動かすことが好きな子どもは多い。
技能面での評価に目がいくが、学習に意欲的に取り組もうとする
姿勢で評価できる。
- ・ 教師の支援について・・・
 - 雰囲気作り。支援量とタイミング。肯定的な言葉掛け。
- ・ 成功体験を多くつむ。
 - 自発的、意欲的に学習に参加できる。

別グループのまとめ

<合わせた指導グループ>

教科等を合わせた指導の整理

合わせた指導グループとしての目標

○生活単元学習の整理

- 1 小中高共通単元の系統性・発展性を確認し、小中高での指導内容を整理
- 2 小学部だけの単元の整理・系統性の確認と指導内容の整理

○総合的な学習（探究）の時間と生活単元学習の指導内容の整理

役割分担

<生活単元学習>

○小中高共通単元

進級単元（進級・卒業）

栽培・調理単元

校外学習

○小学部のみの単元の整理・系統性の確認

季節単元（春・夏・冬）、学校間交流、A L T

<総学と生単の整理（中学部・高等部）>

○ 進路、交流、校外学習（当日のみ）、街

生活単元学習の整理

小中高共通単元の系統性・発展性
小中高での指導内容

単元一覧

本校における生活単元学習の系統性

	進級	季節自然	食育	交流	企画発表	公共施設の利用	旅行	進路
小学部	「あたらしい学年・あたらしい先生」 「〇年生になったら」「卒業式に向けて」	「季節の生活」 「花や野菜を育てよう」	⇒ 「日常生活の指導」	「学校間交流」 「ALTとの交流」	「お楽しみ会」 「学習発表会」	「まち探検」 (徒歩・地下鉄) 「社会見学」 (バス)	「宿泊研修に行こう」 「見学旅行に行こう」	「中学部での生活」
中学部	「入学・進級」 「進級・卒業」	⇒ 「理科」 「日常生活の指導」	「調理①(おやつ)」 「調理②(栄養)」	⇒ 「総合的な学習の時間」	「中学部祭に向けて」	「校外学習」 (地下鉄)	「宿泊研修」 「見学旅行」	⇒ 「総合的な学習の時間」
高等部	「入学・進級」 「進級・卒業」	⇒ 「理科」 「日常生活の指導」	「学年菜園」 「道産食材」 「献立」	⇒ 「総合的な探究の時間」	⇒ 「総合的な探究の時間」	「テーブルマナー」(バス) ⇒ 「総合的な探究の時間」	⇒ 「総合的な探究の時間」	⇒ 「総合的な探究の時間」

生活単元学習の整理＜小学部＞

合わせた指導グループ 2 小学部生活単元学習

「運動会」
「学習発表会」
「進級（春）」
「進級・卒業に向けて」
「校外学習」
「学校間交流」
「栽培」
「町探検」「買い物」
「自然（春・秋）」
「雪中あそび」
「ALT（中学年以上）」
「学期末・始まり」
「旅行」

R2年間指導計画より

共通単元の見直し

- ・合わせる教科等
- ・取り扱う内容
- ・中学部への接続
- ・単元の適切な時数など

特別活動（学級活動）へ

「学期末・始まり」
「運動会」

他学部と合わせて

- ・「企画・発表」
（学習発表会・お楽しみ会）
- ・「進級・進学」
- ・「町探検」
（校外学習・買い物）
- ・「交流」
（学校間・ALT）
- ・「季節・自然」
（春・夏・秋・冬・栽培）
- ・「旅行」
（宿泊研修・見学旅行）

合わせた指導グループ 2 小学部生活単元学習

小学部 生活単元学習の考え方

低学年 (スタートカリキュラム)	中学年	高学年 (中学部への接続)
合科的な学習が効果的 ↓ 時数が多くなる		段階によってはねらいをし ばった教科学習が効果的 ↓ 時数が少なくなる
・ 教師と一緒に ・ 5感をフルに使って ・ 体験してみる	・ 教師や友達と一緒に ・ 自分から気付いたり、見つけたり、発信したりする活動	

- * II・III段階は「生活科」を設定し、中学部理科、社会への接続を意識
- * 学年での一斉学習もあるが、児童のねらいに応じたグループを編成し、学習を展開
- * 単元によっては一定期間集中して取り組むことも

合わせた指導グループ 2 小学部生活単元学習 小学部 学習内容系統表 「季節・自然」

例

取り扱う教科・内容
 生活) 生命・自然/遊び/人とのかかわり
 国語) 聞くこと・話すこと
 図画工作) 表現
 体育) 体づくり運動遊び/体づくり運動
 道徳)

	季節・自然（春）	季節・自然（夏）	季節・自然（秋）	季節・自然（冬）
1年	春を感じる（風、花、虫、土など） 季節の遊び（遊具で遊ぶ） あさがおの種を植える	夏を感じる（校地内探索） 季節の遊び（水遊び） 成長の変化に気付く（花）	秋を感じる（校地内探索） 季節の遊び（秋の素材を使った感触遊び）	冬を感じる 季節の遊び（雪遊び）
2年	春を感じる（風、花、虫、土、服装など） 季節の遊び（遊具で遊ぶ） ミニトマトの苗を植える	夏を感じる（校地内探索） 季節の変化を感じる 季節の遊び（水遊び） 成長の変化に気付く（ミニトマト） 収穫	秋を感じる（校地内探索） 季節の変化を感じる 季節の遊び（秋の素材を使った感触遊び）	冬を感じる 季節の変化を感じる 季節の遊び（雪遊び）
3年	春の季節の特徴を知る 春の植物、生物を探す 季節の遊び（シャボン玉遊び） じゃがいもを植える	季節の特徴を知る （季節の植物や生き物を探す） 季節の遊び（シャボン玉遊び、流水遊び）	秋の季節の特徴を知る 秋の植物を探す 季節の遊び（秋の素材の作品作り） 成長の変化を観察日記に記録する 収穫	冬の季節の特徴を知る 冬の植物を探す 季節の遊び（雪遊び、正月遊び）
4年	春の季節の特徴を考える 春の植物、生物を探す 季節の遊び（シャボン玉遊び） じゃがいもを植える	季節の特徴を知る （季節の植物や生き物を探す） 季節の遊び（シャボン玉遊び、流水あそび）	秋の季節の特徴を知る 秋の植物を探す 季節の遊び（秋の素材の作品作り） 成長の変化を観察日記に記録する 収穫	冬の季節の特徴を知る 冬の植物を探す 季節の遊び（雪遊び、正月遊び）
5年	春の季節を調べる・発表する 春の行事・文化について知る 野菜の種や苗を植える		秋の植物の名前を調べる 秋の植物についてまとめる、発表 季節の行事、文化を知り、体験する 成長の変化を観察日記に記録する 収穫 簡単な調理 疑問に思ったことを調べる、発表	季節の生物について調べる 季節の行事・文化を知り、体験する
6年	春の季節を調べる・発表する 春の行事・文化について知る 野菜の種や苗を植える		秋の植物の名前を調べる 秋の植物についてまとめる、発表 季節の行事、文化を知り、体験する 成長の変化を観察日記に記録する 収穫 簡単な調理 疑問に思ったことを調べる、発表	季節の生物について調べる 季節の行事・文化を知り、体験する

合わせた指導グループ 2 小学部生活単元学習

今後の課題として・・・

- ・ 教科等のねらいや取り扱う内容を確認し、それをもとに授業展開を考える
(活動ありきの生活単元学習ではなく・・・)
- ・ 合わせた指導の必要性を改めて確認する
(児童がもっとも効果的に学べる指導形態を検討する。特にⅡ・Ⅲ段階の児童にとって教科で学ぶことと、合わせた指導で学ぶこと、どちらが効果的か見極めていく必要がある。)
- ・ 各教科等の内容間の関連を十分に図ることができるようにする
(指導内容の不必要な重複を避けたり、重要な指導内容が欠落したりしないように)

<総合的な学習（探究）の時間と生活単元学習の指導内容の整理>

合わせた指導グループ 総合的な学習の時間と生活単元学習

総合的な学習の時間「テーマ」

※小学部は準ずる教育課程3年以上で履修する

	卒入進級	季節自然	食育	交流	企画発表	公共施設の利用	旅行	進路
小学部	「あたらしい学年・あたらしい先生」 「〇年生になったら」「卒業式に向けて」	「季節の生活」 「花や野菜を育てよう」	⇒ 「日常生活の指導」	「学校間交流」 「ALTとの交流」	「お楽しみ会」 「学習発表会」 準)「プログラミング」	「まち探検」(徒歩・地下鉄) 「社会見学」(バス) 準)「地域の生産・流通・消費」	「宿泊研修に行こう」 「見学旅行に行こう」	「中学部での生活」 準)「いろいろな職業」 準)「ボランティア活動」
中学部	「入学・進級」 「進級・卒業」	⇒ 「理科」 「日常生活の指導」	「調理①(おやつ)」 「調理②(栄養)」	「学校間交流」 「地域・郷土・世界を知る」(中学校・町内会・アイヌ文化・外国文化との交流)	「中学部祭に向けて」	「校外学習」(地下鉄)	「宿泊研修」 「見学旅行」	「総合的な学習の時間」 「ようこそ先輩」 「高等部体験」
高等部	「入学・進級」 「進級・卒業」	⇒ 「理科」 「日常生活の指導」	「学年菜園」 「道産食材」 「献立」	「交流学习」(地域・高校生・外国との交流)	⇒ 「総合的な探究の時間」(高等部祭に向けて)	「テーブルマナー」(バス) ⇒ 「総合的な探究の時間」(街へチャレンジ)	⇒ 「総合的な探究の時間」 「宿泊研修」 「見学旅行」	「総合的な探究の時間」 「進路学習・生活体験実習」

今後の課題として・・・

- 同じ学習内容でも学部が変わると、生活単元学習から総合的な学習（探究）の時間になるものがある。
- さらに整理・検証する必要がある。

<自立活動教諭グループ>

自立活動教諭グループの内容

(1) 自立活動実態把握表の記入方法、

及び目標の設定までの流れについて

(2) 自立活動実態把握表記入例を作成

(3) 単元指導計画の授業作りの5つの視点について

自立活動教諭の視点から検討

(1)自立活動実態把握表～記入方法について

別記様式 1：自立活動実態表。

学部・学年・氏名： 学部 年

診断名（疾患名）	*診断名や障害名を記載。
調査等の結果	*知的発達や身体発達の状況、読解能力等の情報（様式2等）を記載。
個別的教育支援計画における支援の目標（長期）	*個別の教育支援計画「支援の目標（長期）」を記載。
自立活動における学びの履歴	*昨年度の個別の推進計画の経過。 （※これまでの学びが身に付いたこと、身に付つつあること、身に付いていないこと等について）。

※ア～キの7つの観点で収集した情報や経験について、自立活動内容の8区分27項目に開述する内容は、行末に区分、項目を1（1）等と記入する。

1 健康の保持 (1)生活のリズムや生活習慣の形成。 (2)病気の状態の理解と生活管理。 (3)身体各部の状態の理解とケア。 (4)障害の特性の理解と生活環境の調整。 (5)健康状態の維持・改善。	2 心理的な安定 (1)情緒の安定。 (2)状況の理解と変化への対応。 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲。	3 人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎。 (2)他者の意図や感情の理解。 (3)自己の理解と行動の調整。 (4)集団の参加の基礎。
4 感覚の把握 (1)体感する感覚の活用。 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応。 (3)感覚の補助及び代用手段の活用。 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動。 (5)認知や行動の手探りとなる概念の形成。	5 身体の動き (1)姿勢と運動・動作の基本的技能。 (2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用。 (3)日常生活に必要な基本動作。 (4)身体移動能力。 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行。	6 コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力。 (2)言葉の受容と表出。 (3)言葉の形成と活用。 (4)コミュニケーション手段の選択と活用。 (5)状況に応じたコミュニケーション。

ア 健康状態	*体調や生活リズム、医療的ケアの状況について。
イ 姿勢や運動・動作	*基本的な姿勢・運動・動作・変形等の状況、補助的手段の活用について。
ウ 日常生活の基本動作	*移動能力や補助的手段の活用、移動動作の状況、食事・排泄・衣服の着脱等の状況について。
エ 作業の遂行	*上肢の運動・動作・補助的手段の活用について。
オ 感覚・知覚	*感覚への応答、視・聴覚の状況や補助及び代用手段の活用について。
カ 人との関わり・コミュニケーション	*基本的な関係や人との関わり、集団参加、場面や相手に応じたコミュニケーションについて。
キ 言語理解・言語表出	*言語理解（読字含）と言語表出（発声、表情、動作、サイン、音声言語、機器を併用した代替手段を含む）について。

実態

目標設定までの
流れ・整理

目標設定の根拠	
時間の指導目標	選択した自立活動の項目に関連付け、具体的な指導内容を設定する。
生活場面での指導目標	

目標設定の根拠

時間、及び生活場面での
指導目標

(1) 自立活動実態把握表～記入方法について

自立活動実態把握表

別記様式1：自立活動実態表

学部・学年・氏名： 学部 年

診断名（疾患名）	※診断名や障害名を記載	
発達検査等の結果	※知的発達や身体発達の状況、発達検査等の情報（様式2等）を記載	
個別の教育支援計画における支援の目標（長期）	※個別の教育支援計画 支援の目標（長期）を記載	
自立活動における学びの履歴	※昨年度の個別の指導計画の履歴 （※これまでの学びで身につけたこと、身につけつつあること、身につけていないこと等について）	
・ア～キの7つの観点で収集した情報や課題について、自立活動内容の6区分27項目に関連する内容は、行末に区分、項目を1（1）等と記入する。		
1 療養の保持 (1)生活のリズムや生活習慣の形成 (2)病状の状況の理解と生活管理 (3)身体各部の状況の理解と管理 (4)療養の特性の理解と生活環境の調整 (5)療養状態の維持・改善	2 心身の安定 (1)情緒の安定 (2)状況の理解と変化への対応 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	3 人間関係の形成 (1)他者とのさかむの基礎 (2)他者の意見や感情の理解 (3)自己の理解と行動の調整 (4)集団の参加の基礎
4 療養の把握 (1)療養する感覚の活用 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応 (3)感覚の補助及び代行手段の活用 (4)感覚を統合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 (5)認知や行動の学習からなる概念の形成	5 身体運動 (1)姿勢と運動・動作の基本的技能 (2)姿勢保持と運動・動作の補助的・手段の活用 (3)日常生活に必要な基本動作 (4)身体運動能力 (5)作業に必要な動作と円滑な遂行	6 コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力 (2)意思の受容と表出 (3)意思の形成と活用 (4)コミュニケーション手段の選択と活用 (5)状況に応じたコミュニケーション
ア 健康状態	※体調や生活リズム、医療的ケアの状況について	
イ 姿勢や運動・動作	※基本的な姿勢・運動・動作・姿勢等の状況、補助手段の活用について	
ウ 日常生活の基本動作	※移動能力や補助手段の活用、移動動作の状況、食事・排泄・衣服の着脱等の状況について	
エ 作業の遂行	※上肢の運動・動作・補助手段の活用について	
オ 感覚・知覚・認知	※感覚への応答、視・聴機能の状況や補助及び代行手段の活用について	
カ 人との関わり・コミュニケーション	※基本的な関係性や人との関わり、集団参加、場面や相手に応じたコミュニケーションについて	
キ 言語理解・言語表出	※言語理解（読字含）と言語表出（発声、表情、動作、サイン、音声言語、機器を使用した代替手段を含む）について	

目標設定の根拠	
時間の指導目標	・選定した自立活動の項目に関連付けて具体的な指導内容を設定する。
生活場面での指導目標	

学年、氏名

診断名（疾患名）

発達検査・諸検査等の結果

個別の教育支援計画における支援目標（長期）

自立活動における学びの履歴

①様式1「自立活動」及び
個別の教育支援計画 4 サポートシート 参照

②関連する自立活動6区分27項目を記入

(1) 自立活動実態把握表～目標設定までの流れ

自立活動実態把握表	
学年、学期、学級、生徒名	
1. 学年、学期、学級、生徒名	2. 学年、学期、学級、生徒名
3. 学年、学期、学級、生徒名	4. 学年、学期、学級、生徒名
5. 学年、学期、学級、生徒名	6. 学年、学期、学級、生徒名
7. 学年、学期、学級、生徒名	8. 学年、学期、学級、生徒名
9. 学年、学期、学級、生徒名	10. 学年、学期、学級、生徒名
11. 学年、学期、学級、生徒名	12. 学年、学期、学級、生徒名
13. 学年、学期、学級、生徒名	14. 学年、学期、学級、生徒名
15. 学年、学期、学級、生徒名	16. 学年、学期、学級、生徒名
17. 学年、学期、学級、生徒名	18. 学年、学期、学級、生徒名
19. 学年、学期、学級、生徒名	20. 学年、学期、学級、生徒名
21. 学年、学期、学級、生徒名	22. 学年、学期、学級、生徒名
23. 学年、学期、学級、生徒名	24. 学年、学期、学級、生徒名
25. 学年、学期、学級、生徒名	26. 学年、学期、学級、生徒名
27. 学年、学期、学級、生徒名	28. 学年、学期、学級、生徒名
29. 学年、学期、学級、生徒名	30. 学年、学期、学級、生徒名
31. 学年、学期、学級、生徒名	32. 学年、学期、学級、生徒名
33. 学年、学期、学級、生徒名	34. 学年、学期、学級、生徒名
35. 学年、学期、学級、生徒名	36. 学年、学期、学級、生徒名
37. 学年、学期、学級、生徒名	38. 学年、学期、学級、生徒名
39. 学年、学期、学級、生徒名	40. 学年、学期、学級、生徒名
41. 学年、学期、学級、生徒名	42. 学年、学期、学級、生徒名
43. 学年、学期、学級、生徒名	44. 学年、学期、学級、生徒名
45. 学年、学期、学級、生徒名	46. 学年、学期、学級、生徒名
47. 学年、学期、学級、生徒名	48. 学年、学期、学級、生徒名
49. 学年、学期、学級、生徒名	50. 学年、学期、学級、生徒名
51. 学年、学期、学級、生徒名	52. 学年、学期、学級、生徒名
53. 学年、学期、学級、生徒名	54. 学年、学期、学級、生徒名
55. 学年、学期、学級、生徒名	56. 学年、学期、学級、生徒名
57. 学年、学期、学級、生徒名	58. 学年、学期、学級、生徒名
59. 学年、学期、学級、生徒名	60. 学年、学期、学級、生徒名
61. 学年、学期、学級、生徒名	62. 学年、学期、学級、生徒名
63. 学年、学期、学級、生徒名	64. 学年、学期、学級、生徒名
65. 学年、学期、学級、生徒名	66. 学年、学期、学級、生徒名
67. 学年、学期、学級、生徒名	68. 学年、学期、学級、生徒名
69. 学年、学期、学級、生徒名	70. 学年、学期、学級、生徒名
71. 学年、学期、学級、生徒名	72. 学年、学期、学級、生徒名
73. 学年、学期、学級、生徒名	74. 学年、学期、学級、生徒名
75. 学年、学期、学級、生徒名	76. 学年、学期、学級、生徒名
77. 学年、学期、学級、生徒名	78. 学年、学期、学級、生徒名
79. 学年、学期、学級、生徒名	80. 学年、学期、学級、生徒名
81. 学年、学期、学級、生徒名	82. 学年、学期、学級、生徒名
83. 学年、学期、学級、生徒名	84. 学年、学期、学級、生徒名
85. 学年、学期、学級、生徒名	86. 学年、学期、学級、生徒名
87. 学年、学期、学級、生徒名	88. 学年、学期、学級、生徒名
89. 学年、学期、学級、生徒名	90. 学年、学期、学級、生徒名
91. 学年、学期、学級、生徒名	92. 学年、学期、学級、生徒名
93. 学年、学期、学級、生徒名	94. 学年、学期、学級、生徒名
95. 学年、学期、学級、生徒名	96. 学年、学期、学級、生徒名
97. 学年、学期、学級、生徒名	98. 学年、学期、学級、生徒名
99. 学年、学期、学級、生徒名	100. 学年、学期、学級、生徒名

現在の実態

昨年度までの経過・
自立活動における
学びの履歴

学習の有効な手立て、
積み重なったこと、難しかったこと

実態の整理・課題の焦点化

疾患から考えられる
特性や特徴

数年後・高等部卒業
のイメージ

目標設定の根拠

- ・ 個別の教育支援計画における支援の目標(長期)とのつながり
- ・ 各学部段階における目標設定のポイント
 - 小：日常生活動作の獲得に向け、
 - 中：2次成長期を考慮、日常生活を自分でできるための工夫
 - 高：卒業後生活を見据える

自立活動の時間・生活場面での指導目標を設定

評価時期に変化点等について追記・修正、次年度の目標を設定

～ポイント～

*複数の視点

(自活教諭との連携・
複数の職員との作成)

*記録の累積

(2) 自立活動実態把握表～記入例

- ▶ 自立活動実態把握表記入例を2例について作成

(3) 主体性を引き出すための授業改善: 5つの視点について

【物理的環境設定】

- ▶ 姿勢の安定 → 臥位、座位、立位、歩行等の補装具の使用、姿勢保持の工夫
- ▶ 上肢の設定 → 姿勢、机の高さ、コルセットの活用、U字クッション、スリングの活用等
- ▶ 刺激の調整 → 視覚・聴覚・触覚・固有感覚の調整
(パーテーション、席の配置、明るさ等)

【補助的手段・支援ツール】

- ・ 自助具・補助具 (スプーン、箸、筆記具等)
- ・ 感覚支援機器 (眼鏡、補聴器、イヤマフ等)
- ・ コミュニケーションツール (タブレット、コミュニケーション機器、カード等)

参考文献、引用文献

- ▶ 古川勝也・一木薫（2016）自立活動の理念と実践 ジアース教育新社
- ▶ 岩崎清隆(2001).発達障害と作業療法[実践編] 三輪書店
- ▶ 文部科学省(平成30年) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編
- ▶ 徳永豊（2014）障害の重い子どもの目標設定ガイド 慶応義塾大学出版会
- ▶ 真駒内養護学校 手引



< 訪問学級グループ >

「本校訪問学級での
遠隔学習の取り組みについて」

<研究内容>

- ① 対面式の遠隔授業（教科学習）
→ 病院とのZoomを使った教科指導
- ② 非対面式の遠隔授業
→ YouTube（休校中）、DVD、プリント課題
- ③ 対面式の遠隔授業（障害の重い子ども）
→ 在宅訪問対象児童生徒のZoomを使った授業

項 目	内 容
内容	<国語> 音読、おはなしづくり、等 <算数・数学> 計算、つまづきのある部分を中心 <理科> 動画やスライドショーの活用 実験や人体模型を使って興味・関心引き出す <英語> 文法、発音 <図工> 絵画（ホワイトボード機能）、作った作品の発表 <音楽> 輪唱
工夫点	・ 声だけではなく、紙に書いた文字を見せる。 ・ パワーポイント、スライドショー、動画の活用。 ・ ペープサートや模型を使用し、わかりやすく興味を持たせるようにした。 ・ ホワイトボード機能の活用。 ・ 在校の英語の先生に協力してもらい、発音を録画させてもらい授業で使った。 ・ 作成したプリントには、計算や回答を記載できる余白を設けるなどして、取り組みやすくしている。 ・ 教科書の文章を問題プリントに打ち込んで、その後に読み取り問題をつけるなど、学年に合わせて取り組みやすい工夫をしている。 ・ 詩などの場合は、児童生徒がイメージをもちやすいように、イラストを添付したりしている。
課題 課題解決の方策	○顔を合わせることに抵抗がある方は、こちらの画像だけ見せるようにして行う。 →本人のペースに合わせてたり（最初は子どもは顔は見せずに、○×カードを見せて答える、など）、保護者や病院の職員の方と連携したことで、対面して学習できるようになった。 ○板書をしていない（書き写さない）ことについて。 →PPをプリントアウトして渡している。 →Zoomとプリントを連動させたほうがいいのでは。 →問題に対して答えるが、本当に理解しているのか疑問に思うこともある。 →書いて覚える必要があるなので、意識して書かせる時間も。

教科学習 プリント作成の参考資料（まとめ）○ 利用してきたサイト

<教科書に対応したサイト>

サイト名	内容、特徴
東書Eネット	教科書に基づくワークシート、プログラム、生徒向け読み物など。
教育出版	ワークシート、入試問題、小テスト、動画集など※リンクが充実。
学校図書	5分でできる小テスト、評価問題など。
新興出版社啓林館	自己評価テスト、基礎学力アップ問題、ドリルなど。

<動画が多いサイト>

サイト名	内容、特徴
デジタルデータバンク大日本図書	理科数学関係の資料 Webコンテンツが多い。
理科ネット	理科実験などのWeb教材が豊富。
NHK for School	いろいろあり 各社教科書にも対応できる優れたもの。

○ 利用してきたサイト

<ドリル系、いろいろな問題あり>

サイト名	内容・特徴
ちびむすドリル	各教科単元・章ごとの問題 数学は要点を初めて書いてあるので取り組みやすい。
やまぐち学習支援プログラム	小1から中3までの各教科の学習プリント。
問題ダウンロード	中学（英、数、理、社）のテスト対策問題や入試問題。
無料で使える中学学習プリント	簡単なまとめが書かれていて、練習問題がついている。
Leeのきょうざいかん	小（国算中心）・中（国英中心）・特別支援に分かれている。 学習プリント
みやぎ単元問題ライブラリー	国語、算数（数学） 学習プリント。
プリント広場 （※IDとパスワード必要）	小（国算）中（国数理社英）学年別に分かれている。

○ 利用してきた書籍

書籍名	特徴、使用方法
教科書ワーク（学校で購入）	部分的に使ったり、まとめとして使ったり、ねらいに合わせて使っている。
学研ニューコース	教科書の要点がわかりやすくまとめられている資料が多い。
中学ひとつひとつわかりやすくシリーズ（学研）	タイトル通りわかりやすい解説が載っている。

② 非対面式の遠隔授業

→ YouTube（休校中）、DVD、プリント課題

<YouTube>

項 目	内 容
動画の内容	<国語> 朗読、文法について、等 <算数・数学> 図形、計算、等 <社会> 地図記号、周辺施設、等 <理科> 天気、植物、実験、等 ※反応が返ってこなくても行えるものや、映像で見たほうがわかりやすいものが多い傾向。
工夫点	・病院内から出られない子どもたちのため、屋外で撮影を多く行った。 ・動画の中で出題して、郵送したプリントに回答するようにした。わかりやすさとともに、時間差でもやり取りが行えるようにした。

<YouTube>：在宅訪問

エプロンシアター、ストップモーションアニメ

<DVD>



※児童 1 名に対して、Zoom、プリント課題とともに行った。

項 目	内 容
動画の内容	○プリント課題（国語、算数）の説明と本人が希望した図工の教材の作り方や遊び方などについて、動画でわかりやすく説明した。 ＜国語＞ ＜算数＞ 小 1 の問題 ＜図工＞ 作ったあとで楽しめる教材を多く出した。 （内容）紙コップ工作、輪ゴムと電池で走る車、けん玉、コマ、竹とんぼ、紙相撲、モノレール、うちわ、など。 ＜音楽＞ 鑑賞と手拍子などのリズム。 ＜生活＞ 季節や植物について。
工夫点	・プリントの内容を動画で補足するようにした。 ・図工は作った作品をZoomで見せてもらい、賞賛して意欲を高めるようにした。 ・DVDにイラストをつけたり、楽しい雰囲気撮影したりして、動画を見ることや学習することが楽しみになるように心掛けた。 ・名前で呼びかけることを多くして、親近感を持てるようにした。
課題 課題解決の方策	●基本的に病院は外部からのデータはNG→今回のケースについては特別にOKがでた。 ●制作に時間がかかる。

③ 対面式の遠隔授業（障害の重い子ども）

→ 在宅訪問対象児童生徒のZoomを使った授業

※ 学校購入のWi-Fiルーターを活用

項 目	内 容
実践にあたって	<グループ訪問での遠隔授業> ・例年：訪問担当職員が全員各家庭を訪問し、ペープサートや器楽演奏などを行っている。今年度はコロナ禍のため、12月実施のグループ訪問では、担任+1名の教員による複数指導とZoomで他の訪問担当教員との交流を行った。 ・効果的な授業の方法について、研修及びリハーサルを行い、実施した。 <個別の在宅訪問での遠隔授業> 11月25日～12月25日の期間内でパソコン及びタブレット（Wi-Fiルーター）を使っての遠隔授業を行った。 ・効果的な授業の方法について、研修及びリハーサルを行い、実施した。

項 目	内 容
実践内容	<グループ訪問での遠隔授業> ・ 訪問担当教員との交流 ・ ペープサート、人形劇 ・ 教職員によるハンドベル演奏 <個別の在宅訪問での遠隔授業> ・ 在宅訪問の授業の一つとして実施（家庭に担任がいる状態で学校とのやりとりを行う） ・ 教職員との交流 ・ 該当学年との交流 ・ 在校の学習への参加 ・ 訪問の子ども同士の交流 ・ 子どもに見やすく、注目喚起しやすいように。 （例：ペープサート：枠線を太くする、動かし方をゆっくり、遠近の動きを活用する、等）

項 目	内 容
工夫点	・ Zoomの機能を効果的に活用する。 （例：先生方の演奏会～スポットライトビデオ機能 自己紹介 ～スピーカービュー機能 始まり、終わりの挨拶～ギャラリービュー機能） ・ 音声について 途切れるなど純粋な音楽鑑賞としては厳しい場合がある。音楽を聴かせながら一緒に歌う、子どもになじみのある曲と一緒に歌う、カメラ（マイク）との位置関係が大切（近い音声が大きいとそれ以外の音が聞こえなくなる）、等の工夫が必要。 ・ <u>リハーサルが重要</u> 見え方、聞こえ方が想定と違うなど、実際にやってみないとわからないことが多い。ホスト端末と参加者を想定した端末によるカメラテストは必ず行った方が良い。 ・ 時間設定 短い時間なら興味を示すことができるなら、内容を精査して短時間で行うことも必要。

※ Zoomの使い方、活用の工夫についてまとめたものを共有。

<まとめ>

- ① 学校や地域とのつながりを持つために効果的。

<成果>

- ・新型コロナの流行で登校の機会が減った。
 - ⇒ オンラインで交流を持てて、良かった。
- ・もともと在校の子どもに比べて、外部との交流が少なくなりがち。
 - ⇒ いままで行われていなかったオンラインでの交流が持てるようになり良かった。

<課題>

- ・今後、ニーズがある場合は地域学習や卒後指導などでもZoomなどを活用できたら良い。
 - ⇒ 校内、校外、関係する方と相談していけたら。
 - ・休校が終わり、コロナが落ち着いてきた頃、教育関係のいろいろな対策も一区切り感があった。世間が少し落ち着いても、病院は面会禁止など状況は変わらず、取り残された感じがあった。
 - ⇒ 病院、施設は諸対策が必要な状況が続くということを伝えていく。
- ② 課題学習、Zoomの活用のコツ等の共有

③ Zoomなどの特徴を踏まえた使用。

⇒ 実践の蓄積。リハーサル。

見え方や聞こえ方を確認する。

実際にやってみないとわからないこと

1回だけではわからないこと

その場で見るのとカメラを通すのでは違う

状況や時間によって変わる

経験を積むことが大切（教員、子ども、家庭）

④ 子どもそれぞれに合わせた利用。

⇒ 目的、内容、時間など。

オンライン学習をやること自体が目的ではない。

- ・ 目的を明確にする。
- ・ 短時間で行う。
- ・ 効果的な内容を行う。

リアルタイムの方がより学校とのつながりを感じる。

リアルタイムの必要がないのであれば録画の方が効果的にできることも多い。

リアルタイムでのやりとりが効果的に行える。

⑤ かかわり、連携をよりていねいに行う。

⇒ 対面に比べて、より大切になる。

子どもとのやりとり

⇒ Zoomで悩みやつらい気持ち等を伝えることは考えにくい。

必要な場合は電話、手紙のやりとりなどを行うことも大切。